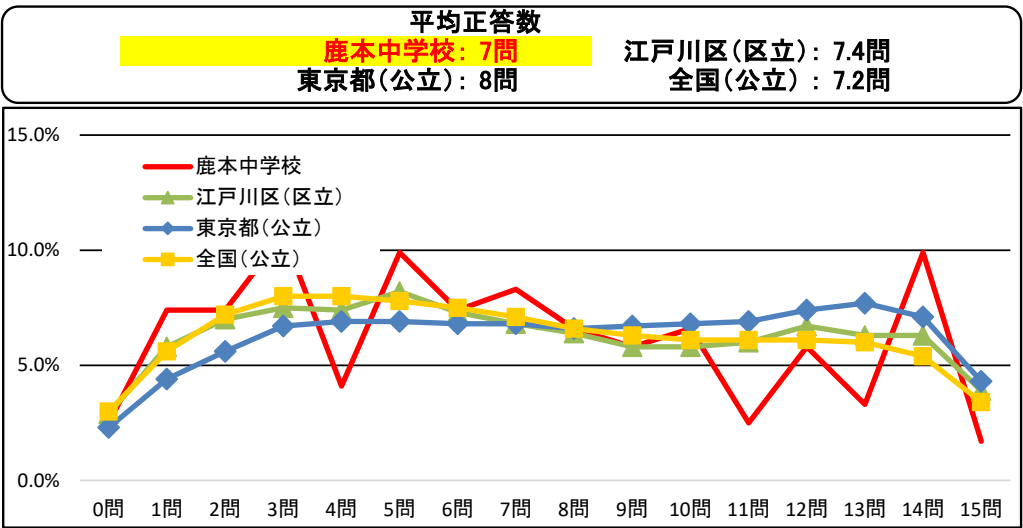


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【数学】 鹿本中学校

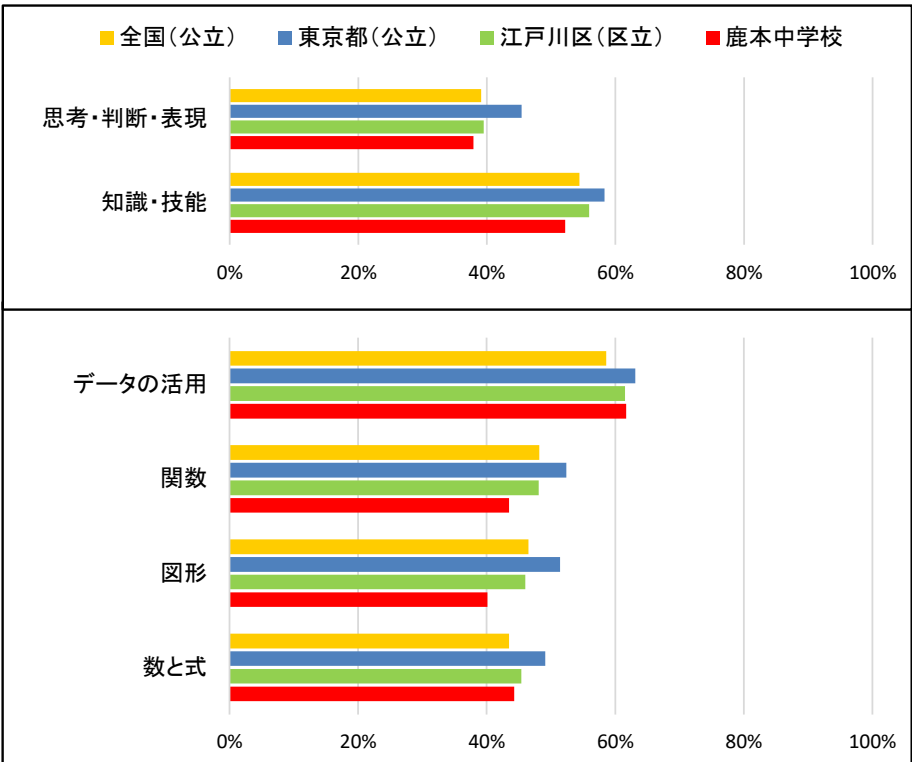
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

鹿本中学校	47%
江戸川区(区立)	49%
東京都(公立)	53%
全国(公立)	48.3%
都との差(ポイント)	-6.0

「領域別」の結果

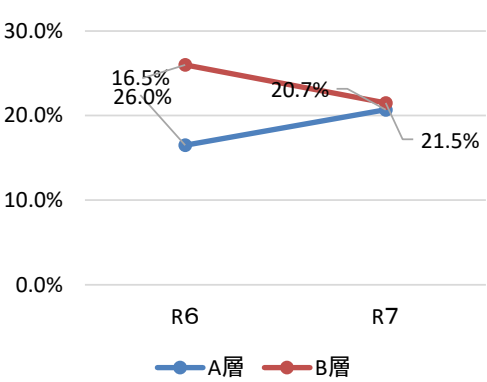


四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

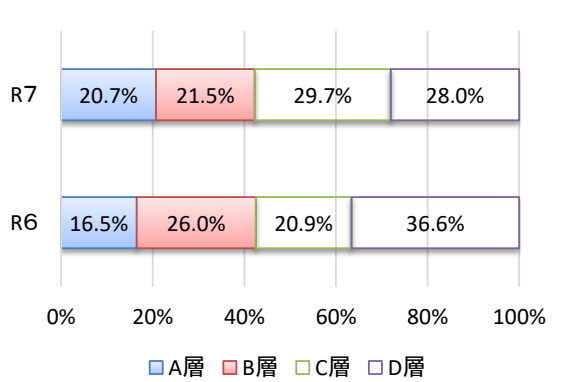
数 学	上位 ← → 下位			
	A層 12~15問	B層 8~11問	C層 4~7問	D層 0~3問
鹿本中学校	20.7%	21.5%	29.7%	28.0%
江戸川区(区立)	23.2%	24.0%	29.6%	23.2%
東京都(公立)	26.5%	27.0%	27.5%	19.0%
全国(公立)	20.9%	25.1%	30.2%	23.8%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

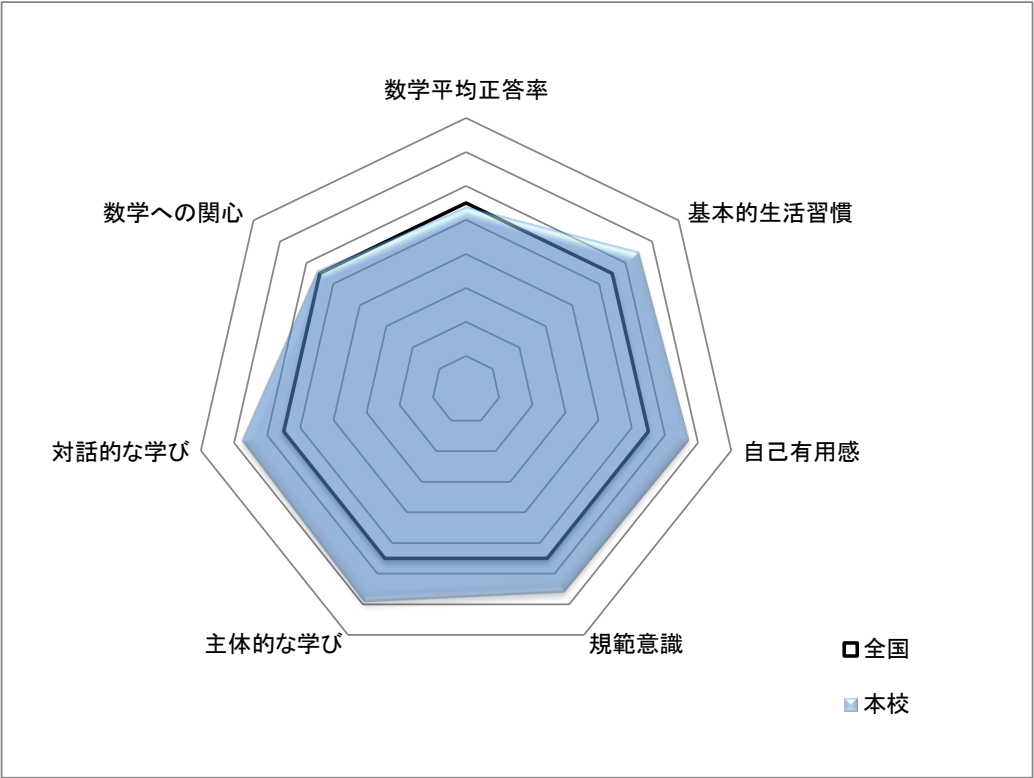
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

対話的な学び、および主体的な学びの項目は肯定的な回答が多いのに比べ、数学への関心が低い傾向にある。それが正答率がやや低い要因になっているのではと考えられる。今後、生徒が、関心をもつ教材により、生徒の関心・意欲を高めていきたい。

《家庭・地域への働きかけ》

保護者会等で、校内で作成している学習の手引きを丁寧に説明する。保護者からも生徒に、家庭で学習する習慣を身につけるよう声掛けを促し、生徒が、意欲的に学習することができるようにしていきたい。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

昨年度の現状から本校はB層とD層のパーセンテージが高い傾向にある。そのため、今年度はB層をA層に引き上げる、D層をC層に引き上げることを目標に習熟度別少人数授業において、一人ひとりの個に応じた授業展開の実施を心がけた。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

習熟度別少人数授業を実施するなかで、日常的に教員同士の授業内容を確認し合うことにより指導力の向上を目指している。

・基礎学力の保障

習熟度別少人数授業の基礎学力クラスにおいて、計算力や基本的な問題の解決能力の向上を目指している。基礎基本が身についた生徒は、基礎学力クラスから応用クラスにクラス替えをすることにより学習意欲の向上と基礎学力の充実を図っている。また、学習内容によって各分野ごとに個々の基礎学力を分析し、クラス替えも行っている。

・学習習慣の確立

- ①課題の提出。
 - ②単元テストの学習用プリントを配付し、自己学習が進められるようにする。
 - ③基礎学力クラスで毎時間小テストを行い、個々の課題を確認し、取り組めるようにする。
- 以上3点により学習習慣の確立を目指している。

・AB層の育成

習熟度別少人数授業の、応用クラスでは特に対話的な活動や、学びあいを取り入れた授業を増やすことにより更なる学力の向上を生徒が目指せるように工夫している。